



TEAM 2022

KEIO VOLLEY BALL

the Spring League Pamphlet



ROSTER

PLAYERS



4年 S/主将
1 高倉 真古都
Makoto Takakura

出身校 慶應義塾 身長 178cm
学部 商学部 最高到達点 317cm



3年 OP
2 松本 喜輝
Yoshiteru Matsumoto

出身校 九州産業 身長 186cm
学部 環境情報学部 最高到達点 339cm



2年 OH/OP
3 渡邊 大昭
Hiroaki Watanabe

出身校 慶應義塾 身長 189cm
学部 商学部 最高到達点 334cm



1年 OP
5 山本 柊
Shu Yamaki

出身校 慶應SFC 身長 173cm
学部 文学部 最高到達点 316cm



3年 OH
6 島田 航希
Kazuki Shimada

出身校 慶應義塾 身長 182cm
学部 経済学部 最高到達点 320cm



1年 L
7 山元 康生
Kousei Yamamoto

出身校 慶應義塾 身長 171cm
学部 法学部法律学科 最高到達点 310cm



2年 MB
8 芳賀 祐介
Yusuke Haga

出身校 札幌北 身長 197cm
学部 環境情報学部 最高到達点 338cm



4年 MB/副将
9 降 小雨
Kosame Jan

出身校 慶應義塾 身長 191cm
学部 商学部 最高到達点 340cm



3年 S/副将
10 大槻 晟己
Masaki Ohtsuki

出身校 清風 身長 176cm
学部 総合政策学部 最高到達点 311cm



1年 OH
11 入来 晃徳
Akinori Iriki

出身校 佐世保南 身長 187cm
学部 環境情報学部 最高到達点 343cm



2年 OH
12 内田 克弥
Katsuya Uchida

出身校 松江高専 身長 181cm
学部 環境情報学部 最高到達点 321cm



1年 L
17 平山 一之心
Kazunoshin Hirayama

出身校 甲南 身長 171cm
学部 商学部 最高到達点 315cm



4年 OH
18 安達 龍一
Ryuichi Adachi

出身校 洲本 身長 198cm
学部 環境情報学部 最高到達点 339cm



4年 L
25 樋口 太樹
Taiki Higuchi

出身校 慶應義塾 身長 179cm
学部 経済学部 最高到達点 311cm



4年 MB
27 下田 悠生
Yuki Shimoda

出身校 慶應SFC 身長 191cm
学部 経済学部 最高到達点 338cm



3年 MB
28 西山 誠一郎
Seichiro Nishiyama

出身校 山口 身長 183cm
学部 法学部政治学科 最高到達点 305cm



1年 S
29 久保田 健介
Kensuke Kubota

出身校 慶應SFC 身長 168cm
学部 商学部 最高到達点 307cm

STUDENT STAFF



4年 アナリスト
藤田 鈴子
Suzuko Fujita

出身校 学習院女子 身長 167cm
学部 文学部



3年 主務
今田 敏貴
Toshiki Imada

出身校 慶應義塾 身長 171cm
学部 商学部



3年 アナリスト
立川 貴一
Takahito Tatsukawa

出身校 愛光 身長 174cm
学部 商学部



3年 渉外主務
厳 欣怡
Shini Gen

出身校 慶應女子 身長 161cm
学部 経済学部



3年 トレーナー
三ツ井 梨々香
Ririka Mitsui

出身校 慶應SFC 身長 155cm
学部 商学部



2年 アナリスト
田鹿 陽大
Hinata Tajika

出身校 慶應義塾 身長 170cm
学部 法学部法律学科



2年 副務
細野 一真
Kazuma Hosono

出身校 慶應義塾 身長 174cm
学部 経済学部



2年 学連委員
山本 昌岳
Masataka Yamamoto

出身校 慶應義塾 身長 170cm
学部 文学部

COACHING STAFF

部長
和田 龍磨
Tatsuma Wada

総監督
藤澤 昌彦
Masahiko Fujisawa

監督
星谷 健太朗
Kentaro Hoshiya

コーチ
池野谷 輝
Akira Ikenoya

チームドクター
鈴木 陽太
Yota Suzuki

アドバイザー
脇 奈津子
Natsuko Waki

管理栄養士
大村 恵利
Eri Ohmura

メンタルトレーナー
辻 秀一
Shuichi Tuji

FOR
MORE
INFO...

Email : keiovb@hotmail.com

HP : keiovb.com

Twitter : [@keiovb](https://twitter.com/keiovb)

Instagram : [keio_official_volleyball](https://www.instagram.com/keio_official_volleyball)

HPや各種SNSはこちらから→



新入生特集

Freshman Interview

新入部員への5つの質問

- Q1...入部した理由やきっかけ?
- Q2...4年間の目標は?
- Q3...憧れの先輩はいますか?
- Q4...ここを見てチームで活かしたい自身の武器は?
- Q5...塾バレー部の魅力を一言で!

いづき あきのり 入来晃徳(環1) / OH

- A1...自分が人として一番成長できそうな環境だったから
- A2...安定したエースになる
- A3...降小雨さん(商4)
- A4...まずはサーブを極めたいです
- A5...とても優しくてカッコいい先輩が沢山います!



くぼた けんすけ 久保田健介(商1) / S

- A1...バレーが好きだった
- A2...Lギュー、日本一
- A3...樋口太樹さん(経4)
- A4...トス
- A5...仲良し



ひさやま かずのしん 平山一之心(商1) / L

- A1...人生において、必死になってバレーをする最後の4年間のため
- A2...日本一
- A3...島田航希さん(経3)
- A4...二段トス
- A5...少数精鋭



やまき しゅう
山木柊(文1) / OP



- A1...強豪の一員として戦いたかったから
- A2...戦力になること
- A3...内田克弥さん(環2)
- A4...小さなスパイカーとして、攻撃にアクセントを加える飛び道具のようになりたいです
- A5...明るい部活です

やまもと こうせい
山元康生(法1) / L

- A1...春高予選で負けてこのまま終わることができなかったから、成長したいと思ったから
- A2...スマッシュ
- A3...高倉真古都さん(商4)と樋口太樹さん(経4)
- A4...守備、特にサーブレシーブとディグ
- A5...メリハリがあって雰囲気の良いチーム



彼らのこれからの活躍にぜひご期待ください!



主将 × 副将 × 副将 三者対談

高倉真古都(商4) 降小雨(商4) 大槻晟己(総3)

昨年の秋季リーグ戦で悲願の1部復帰を決めた塾バレー部。今季からは強豪ぞろいの関東1部での戦いが始まる。今回は高倉真古都主将、降小雨副将、大槻晟己副将らによる対談をお届けします。



——まずは三者対談ということでお互いの印象を教えてください。

大槻 言やすいので僕からいいですか？(笑) 高倉キャプテンは真面目で、練習メニューもしっかり考えて組んでいるなど感じています。気を付けるポイントを部員にうまく意識させるためにわざと他の人に発言させたりだとか、そういうところすごいと思います。降副将は1年生の時から試合に出ている分、ゲームの中での思考力や対応力の面ですごく頼りになるなどと思っています。この前の練習試合でも助けられる場面が何度もありました。

降 (真古都)気持ちよさそうにするなよ。

高倉 いやいや(笑)。晟己はとてもよく後輩をまとめてくれているなどと思っています。(新)3年生で副将を務めてもらっているのはありがたいですし、僕のこと真面目って言うてくれたんですけど、それ以上に彼は真面目だと思います。

降 なんかかゆいなあ、今日(笑)。

高倉 1回聞いてよ、1回ね。(晟己の)練習に対する姿勢というのは僕よりいいものを持っていると思っていますし、プレーの安定感は部内一といっても過言ではないと思います。そういうところで部員からの信頼も厚いのかなと感じています。とても頼りになる存在ですね。

で、降はやっぱり1年生から試合に出ていて僕より試合経験があるので、昨年秋のリーグ戦でも頼りになりましたし、これからの対1部でも頼りにする場面は増えると思っています。まあ高校からずっとやってきている仲なのでお互いのことはだいたい分かっていますし、その辺は心配する必要はないのかなと思っています。

降 2人とも真面目に答えるなあ、そういう枠いる？(笑) まあ晟己に関しては、最初に会ったのは体験練習きたときだけ？

大槻 そうですね。

降 晟己はストイックですね。入部してから体は目に見えて大きくなっていますし、バレーボールに対する姿勢というのもさすが清風だな、と。ただもう少し大学生らしくてもいいんじゃないかな。僕ちょっと危惧してて(笑)。ストイックすぎるあまりバレーボール一筋なので。余計な心配かもしれないですけど人生の先輩としてね、ストイックが玉に瑕にならないようにしてもらいたいです。もっと私生活も充実させたいと思います。

——大槻さんは自覚ありますか？

大槻 最近僕は私生活楽しめているな、と思っているんですよ。外から見るとそんな感じなんですよ(笑)。

高倉 それだけ真面目ってことよ。

降 真古都も同じような感じで真面目なんですけど、晟己とは違うタイプの真面目っていうか。言葉にすると難しいんですけど。高校時代も今大学でも主将を務めていて、プレッシャーに耐えながらしっかり結果を残していきなさいいけないというのは大変だろうなと思います。当時も今も横から見ていて、プロ意識や覚悟を感じて素直に尊敬しています。



大槻晟己(総3)

——初対面から印象が変わった人はいますか？

大槻 真古都さんがお笑い好きっていうのがギャップを感じましたね。普段真面目なのによって(笑)。そういうの興味あったんだって感じです。僕もお笑い好きなので嬉しかったです。

降 僕はなんかないの？

大槻 降さんは、降さんはそうですね…。僕の高校の先輩と少しお話されていたみたいで、結構降さんのことは聞いていました。なので良い意味で想像通りでしたね。すごく頼りがいがある先輩です。

降 真古都とは中学生の時に初めて会いました。同じ地区だったので。真古都の中学校はすごく強くて、試合するたびにボコボコにされましたね。だからバレーボールに対してものすごい意識で取り組んでいるんだろうなと思っていましたが、最近ラーメンとかよく食べているのを見て、実は体育館を出たら普通の大学生なんだなって感じです。ゲームしたり、お笑い見たり、ギトギトのラーメン食べたり(笑)。そういうのばかりなので意外と人間なんだなって思います。長い付き合いですけど。

——高倉さんは降さんと会った中学時代のこと覚えていますか？

高倉 そうですね。僕らの地区に一人大きいやつがいるっていう認識で。

降 (笑)。当時187センチくらいあったかな。

高倉 で、高校どこ行くなってなったときに同じ慶應だってなって、そこから今まで印象は特に変わってないですね。バレーに対してストイックだし、持っている身長を活かしてプレーしているなと思います。

——場も温まったところで、昨シーズンのお話に移らせていただきます。1部復帰を果たした昨シーズンだったと思いますが、振り返ってみて率直にいかがですか。

大槻 僕はリーグの1試合目に急遽出ることになって。

降 懐かしい(笑)。

——焦ったりしませんでしたか？

大槻 なんか急すぎて焦る間もなくて感じでした(笑)。ある程度はできたんですけど、自分が思っている理想とはまだまだ程遠いプレーだったので、もし今季で機会があればこの冬を経て成長した姿を見せられたらいいなと思っています。

降 4年生が主体性を持ってチームを引っ張ってくれて、下級生はそれに全力でついていったという感じです。自分たちの判断で舵を切って物事を進めたというよりは、4年生についていったら良い結果だったと僕は捉えています。結果だけをみたら全勝で1部昇格って良く見えるんですけど、自分たちで何かできたのかと言われるとまだまだ改善する余地がたくさんあったと思うので、そういう面では少し悔いが残っていますね。

高倉 今聞いていて僕もそう感じています。4年生が頑張るのは当たり前として、下級生をどう頑張らせるかというところのチームマネジメントがうまかったなと思います。そのマネジメントがうまくいった結果として順当に全試合勝てて1部に上がることができたと捉えています。もちろん僕たちも試合に出ているいないに関わらず、みんなそれぞれ自分の役割を果たした結果であるとは思っていますが、4年生がいなかったら成し得なかったなと思いますね。僕らはただ4年生についていったという感じです。



降小雨(商4)

——主将・副将になると決まったときはどのような気持ちでしたか？

高倉 僕が主将になった経緯としては監督やOBの方からの推薦でやってくれという形だったので、本当に自分でいいのかな？とまず最初に思いました。11月末くらいにこれはもう決定事項だけだと考えといて、って言われて(笑)。1週間くらい経って、ああもうこれはやるしかないんだなと思って、分かりましたやりますって言いました。そのときにはもう春1部で戦うことが決まっていたので、1部のチームを率いる主将かって感じで少し怖気づいたところはありません。今主将になって2カ月くらい経って、自分で言うのもあれなんですけど、そこまでやらかしてないなって。可もなく不可もなくだと思っています。これから僕が率いるチームのその「可」の部分っていうんですかね、そこを増やして、チーム高倉の

色をもっと出して慶應の強みにしていきたいと思っています。なので就任当時の不安な気持ちというのは今はないです。



高倉真古都(商4)

降 僕も監督から言われて、最初は言われたからやるかという感じでした。でも就任してからは、言われたからやるだけではなくて、副将というのはさっき真古都が言った「可もなく不可もなく」の不可の部分減らしていくことだと思うんですよ。そこって主将がカバーしきれないというか、主将も人間なので。可を増やしつつ不可も減らしていくってなると大変だと思うので、そこは役割分担が必要かなと思います。真古都が可もなく不可もなくって言ってくれて、可を増やしていく土台作りができていたのかなと思って嬉しかったです。

大槻 僕も監督から言われてやることになりました。最初監督に呼ばれたときは怒られるのかなって思いました(笑)。僕入部した1年生のときにOBの方から言われて体育会誌を読んだ感想を提出したことがあったんですよ。当時3年生で副将をされている方がいるのを知って、自分もそうなりたいと思って書いたんです。それを監督が読んでいて、自分で書いたからには責任を持ってやってくれと伝えられてやることになりました。

過去に自分がそう書いたので、慶應バレー部を強くできるように頑張ろうという気持ちです。

——主将・副将になると決まってから何か3人でお話されたんですか？

高倉 3人というのはあまりないですね。役職こそあれど、メニューやチームの方針を決めるときも、この3人だけじゃなくて最上級生みんなで決めるという感じでやっています。僕があまり少人数で決めたくない人なので、みんなに意見を求めることが多いです。この3人で決めても他の人がどう思うかは分からないし、まず同期と晟己に投げて、話し合いをして決めています。

大槻 チーム内だとけっこうストイックな上層じゃないですか。だから僕らだけで決めちゃうとついてくる人いないんじゃないか問題がありますよね。

高倉 ほんとそれを1番危惧してる(笑)。またなんか役職だけでやってるよ、みたいな雰囲気になる組織ってあると思うんですよ。うちはどうなるか分からないですけど、本当にそうはしたくないです。

——小出主将のときもみんなで決めるっていうスタンスでしたよね。

高倉 あの人は自分のできないことは全部人に投げていましたね。僕が小出主将から聞いたのは、自分のできないことは無理してやる必要はない、ってことです。むしろ得意な人に投げた方が組織としてうまく回るんだからと言われました。僕あんまり話し合いを回すの自信があるわけではないので、降とか得意な人に投げるようにしています。それぞれが得意な場所で頑張ればいいのかなと思いますね。僕は練習に対する姿勢とかでチームを引っ張ろうと思っています。

——ほかに小出主将から引き継いでいきたいもの、また新たに始めていきたいことはありますか？

高倉 去年のスローガンでもある「家族」のようなチームというのは引き継いでいくというか、伝統にしていきたいと思っています。互いに無関心な組織というのは大事なところでポロが出ると思うし、その考えを否定する人は慶應にはいないと思うので、引き続きそういう雰囲気は浸透させていきたいと思っています。新たに始めたいことか〜。なんだろう。筋トレかな、筋トレです。え、それここで言う？(笑)

降 いいじゃんいいじゃん、親しみやすくして。

高倉 半分ネタで、半分真剣です(笑)。トレーニングの意識の面で課題があるので、それってそれぞれの試合のパフォーマンスに影響すると思うので、まだチーム内で意見はまとまっていないんですけど、一つの指針を決めて頑張っていきたいところではあります。

新たに始めていきたい取り組みはトレーニングシステムの構築とでも言っておきましょうか。

——ばっちり書かせていただきます。

チャンピオンマッチでは優勝されましたが新チームをどう感じていますか。

降 今年強いですよ、あえて言い切りますけど。今までの慶應って大きい選手を揃えて攻撃特化でオープンバレーみたいな感じだったんですよ、僕が1年生のときは特に。攻撃決まらなかったらサイドアウトとれないみたいな。で、相手の攻撃はブロックで止まらなかったら落ちるって感じで。去年チームの方向性がガラッと変わって、やっぱり勝ち上がるためにはレシーブだよね、ってなってリバウンドとかしっかり練習するようになりました。そうしたら結果も伴ってくるようになりました。今年は攻撃も守備もどっちも合わさっているなど感じていて、芳賀祐介(環2)とか真古都を筆頭にレシーブも強化されていますし、このまま煮詰めていけば1部で上位を狙えるだけのポテンシャルはあるんじゃないかと思っています。

大槻 降さんのおっしゃる通り、すごく伸びそうなチームだなという感触があります。それはなんでかって言うと、身長のある選手が一定数いるってことと身長がなくても身体能力の高さや細かい技術がある選手が多いので良い意味でバランスがとれているなと思います。逆に今課題なのはちょっとまだ波があるというか。この前のチャンピオンマッチでも勝っ

ったところに負けたりとか、負けたところに勝ったりとかがあったので、そういうムラをなくすために、オールインという意味でも全集中の常中を…。

降 なに言ってんの(笑)。そのまま書いてくださいね？お願いします。

高倉 このままだと僕らなんも面白くない感じになっちゃうからさ(笑)。

大槻 全集中の常中をしておくことでリーグ戦の会場では慶應が領域展開できていると思っています。

一同 (爆笑)

——春季リーグ戦で注目してほしい選手はいますか。

高倉 僕は同期の安達龍一(環4)ですね。この3年間メインで試合に出る機会はゼロに近くて、このリーグ戦がデビュー戦ってかたちになると思います。練習試合していて思ったのは、やっぱりスパイクが高いです。身長があるのにちゃんとキビキビ動けるので、今までの慶應にはあまりいないタイプの選手だと思います。あと本人めちゃくちゃいいやつなので、我が強いタイプでもなく、後輩からも慕われていますし、なんかしらやってくれると思います。他大もデータがあるか分からないので、なんだアイツはってなるんじゃないかなと思いますね。化学反応じゃないですけど、1部と対峙してみた龍一を見てみたいです。うまくいけばめちゃくちゃ結果出ると思うので、ぜひ注目してほしいです。

降 僕も1人目は龍一です。入ってきたとき、これ言っちゃ悪いんですけど、ただ身長があるだけみたいな感じで。3年間やってきて1番辛酸を舐めたのが龍一だと思うんです。あれだけ身長があると周りからの評価も、僕ら同期の期待値も最初高かった中で、あまり実践経験がなくAチームにあがる機会もなく、本人がもがき苦しんでいたのを傍で見ました。それを改善するために3年間1番努力したのも龍一だと思うし、最後はその努力が実を結ぶと信じています。



安達龍一(環4)・芳賀祐介(環2)

——最後に、主将・副将としての意気込みをお願いします！

降 じゃあ真古都が最後ね、こういうのは1番偉い人が最後って相場が決まっているから。

大槻 当たり障りない感じで僕からいきますね。やっぱり3年生という立場で副将をさせていただいている以上は先輩たちに1部で活躍してもらいたと思います。そのためにも強いチームを作り上げるというのを、リーグ戦までもう残り少ないですけど全集中でやっていきたいです。僕は火の呼吸なんですけど…。



大槻(総3)・高倉(商4)・降(商4)

降 ずっとそのキャラでいってよ？来年のインタビューでもそう言ってなかったら僕と真古都でしばきにいくからね？(笑)

さっきも言ったんですけど、いかにチームのマイナス、不可を減らすかってところですかね。基本的に表に立って引っ張っていくのは真古都なので、そこだけに集中してもらえようになりたいと思っています。練習のメリハリの調整とか、試合の時どうやって対応していくのかとかメインのところは主将がやってくれると思うので、僕は枝葉末節なところを縁の下の力持ち的な感じで頑張ろうと思います。

大槻 あ、さっきの火の呼吸って言ったんですけど、陸の王者の呼吸に変えてもらっていいですか？

一同 (爆笑)

高倉 そうですね、主将としてみんなを率いる存在として試合に負けたり、思うような結果がでなかった時こそ僕の出番かなと思います。調子がいいときってみんな各々役割を果たしてくれていると思うんですけど、チームがうまくいかない時こそ言葉や行動で示すのは僕の仕事かなと思うので、その点を意識してやっていきます。みんなが最大限のパフォーマンスを発揮して試合で良い結果を残したいって思うチームの雰囲気させるのも大事だと思います。良い状態で試合に臨めるように全てのことに全力で取り組んで、主将が頑張っているから僕らも頑張らなきゃなって思ってもらえるように一生懸命やっていこうと思います。

——ありがとうございました！

インタビュー全文は慶應スポーツ新聞会
ホームページにてご覧いただけます。

下記QRコードを読み取り、
ぜひご覧ください！



新チームロゴ・ホームページについて

慶應義塾体育会バレーボール部は昨年度に創部90周年を迎えました。
これを記念し、チームロゴとホームページの一新をすることとなりました。

【新チームロゴ】



--ロゴコンセプト--

KEIOとVOLLEY BALLの頭文字であるKとVを繋げることで、塾バレー部が、常に高い目標と向上心を持ち、今後も勢いよく成長し続ける、という想いを込めています。

また、慶應らしいカラーリングや、スマートかつスポーツチームらしいデザインに仕上げております。

【新ホームページ】



試合結果をはじめ、部員の生き生きとした姿をお届けしていきます。
ぜひチェックしてみてください。



